

エコアクション21

環境活動レポート

期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

株式会社 北関東マツダ

発行日 平成29年9月1日作成

改定日 平成29年10月13日作成

目次

- 1 環境方針
- 2 組織の概要
- 3 対象範囲：事業場一覧
- 4 対象範囲：環境管理実施体制
- 5 環境目標
- 6 環境活動計画
- 7 環境活動計画の取組結果・評価及び今後の活動計画
- 8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 9 代表者による全体評価と見直しの結果

株式会社 北関東マツダ

環境方針

基本理念

株式会社 北関東マツダは、自動車販売・整備などの全ての事業活動において自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会作りに貢献します。

環境保全への行動指針

- 1 環境に関する法規制を遵守します。
- 2 限りある資源を大切にすため、省資源・省エネルギーを推進します。
- 3 使用済自動車の適正処理、リサイクルを推進します。
- 4 環境型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
- 5 環境に配慮した製品の提供、及びグリーン購入を推進します。
- 6 使用する化学物質の量を把握し、その使用削減に努めます。
- 7 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実施します。
- 8 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し、公表します。



平成22年7月1日制定

平成22年11月25日改訂

株式会社 北関東マツダ

菊地 健太郎

フォト：スカイアクティブエンジン（クリーンディーゼル）

組織の概要

- 1 会社名及び代表者名 株式会社 北関東マツダ 代表取締役 菊地 健太郎
- 2 所在地 茨城県水戸市千波町2770番地74
- 3 事業内容 マツダブランドの乗用車・商用車の新車販売、中古自動車の販売、部品、用品等の販売
自動車整備業、損害保険代理店
- 4 事業の規模と対象範囲 (1) 店舗数 36店舗 (茨城21店舗、栃木15店舗) ※別紙の事業場一覧参照
設立 昭和57年11月 資本金 2億6千万円
売上高 223億8千万円 (平成28年4月1日 ~ 平成29年3月31日)
従業員数 639名 (平成28年3月31日時点)
(2) 対象範囲：全組織、全活動を対象としてエコアクション21を展開する。

平成28年3月31日時点

No	店舗名	従業員数 (人)	車両販売 (台)	在庫台数 (台)	No	店舗名	従業員数 (人)	車両販売 (台)	在庫台数 (台)
	水戸店	27	331	13,801		日立UL	5	235	
	本社	81				栃木事業部	23		
	水戸千波店	18	163	7,708		宇都宮駅東店	33	307	13,282
	高萩店	13	140	6,327		宇都宮インターパーク	17	179	5,893
	日立店	19	258	10,302		インターパークBPC	13		
	ひたちなか昭和通店	20	276	10,437		宇都宮西川田店	13	170	6,268
	石岡千代田店	11	157	5,307		真岡店	10	101	4,694
	つくば店	14	176	6,887		佐野店	17	184	7,156
	つくば研究学園店	17	191	7,981		栃木店	16	159	7,523
	土浦店	14	142	5,825		小山店	15	230	6,451
	土浦並木店	12	78	3,697		黒磯店	11	129	4,127
	うしく店	13	158	6,969		西那須野店	13	180	4,644
	ひたち野うしく店	13	116	5,758		鹿沼店	13	101	4,471
	竜ヶ崎NT店	15	166	6,975		宮環細谷店	18	188	7,241
	TX守谷駅前店	24	159	10,029		小山ひととのや店	14	195	7,053
	下館店	14	155	6,240		今市店	10	100	4,221
	古河店	19	172	7,996		矢板店	8	70	2,862
	鹿島店	13	319	5,602		小山喜沢UL	4	143	
	潮来店	11	89	4,176					
	神栖店	12	161	5,328					
	CP水戸	6	216			北関東マツダ合計	639	6,294	223,231

- 5 環境管理責任者 専務取締役
- 6 EA21_環境推進事務局 管理部 管理部長 サービス営業部 担当課長
監査部 担当次長 栃木事業部 サービスGr 担当課長
- 7 連絡先 株式会社 北関東マツダ
本社 TEL 029-241-1141 FAX 029-241-0997
栃木事業部 TEL 028-633-2169 FAX 028-633-2127

改訂：平成29年06月30日

(株)北関東マツダ 事業場一覧

単位：㎡

No	Code	店 舗	人員	〒	住 所	電話番号	工場	床面積
1	20	本社 (※水戸千波店同敷地内)	81	310-0851	水戸市千波町 2770-74	029-241-1141	—	418
2	111	水戸店	27	310-0851	水戸市千波町 1945-12	029-241-3732	指定	2,352
3	112	日立店	19	316-0012	日立市大久保町 3-9-28	0294-33-3263	指定	1,397
4	113	土浦店	14	300-0841	土浦市中1327-5	029-841-1223	指定	946
5	114	古河店	19	306-0015	古河市南町 1-69	0280-32-6400	指定	463
6	115	潮来店	11	311-2410	潮来市延方西 1534-1	0299-66-3288	認証	422
7	116	下館店	14	308-0847	筑西市玉戸 1087-3	0296-28-1506	指定	931
8	117	竜ヶ崎ニュータウン店	15	301-0002	竜ヶ崎市中根台 2-1-9	0297-65-3030	認証	477
9	118	ひたちなか昭和通り店	20	312-0011	ひたちなか市中根 890-1	029-272-5381	指定	1,392
10	119	神栖店	12	314-0114	神栖市日川 1963-34	0299-96-3288	指定	465
11	121	高萩店	13	318-0013	高萩市高浜町 3-9-8	0293-23-5711	指定	299
12	126	カーパレス水戸	6	310-0851	水戸市千波町 1936	029-241-3731	—	68
13	127	日立ユーカーランド	5	316-0012	日立市大久保町 3-16-1	0294-35-3338	—	54
14	130	うしく店	13	300-1236	牛久市田宮 2-27-1	029-874-1599	指定	555
15	211	水戸千波店	18	310-0851	水戸市千波町 2770-71	029-241-1145	指定	1,107
16	213	鹿島店	13	314-0027	鹿嶋市佐田 1-56	0299-82-0431	指定	773
17	219	土浦並木店	12	300-0065	土浦市西並木町 3591	029-821-6572	指定	479
18	231	つくば店	14	305-0042	つくば市下広岡 1055-56	029-855-7444	認証	594
19	234	ひたち野うしく店	13	300-1232	牛久市上柏田 3-45-2	029-874-8833	認証	479
20	237	石岡千代田店	11	315-0052	かすみがうら市下稲吉 1672	0299-59-6611	認証	515
21	240	つくば研究学園店	17	305-0817	つくば市研究学園C30街区1	029-868-6380	認証	491
22	241	TX守谷駅前店	24	302-0110	守谷市百合丘3丁目261-1	0297-45-2811	指定	4,427
23	20	栃木事業部	23	321-0941			—	—
24	11	宇都宮駅前店	33	321-0941	宇都宮市東今泉 1-1-60	028-633-2161	指定	3,639
25	706	宇都宮インターパーク店	17	321-0118	宇都宮市インターパーク4丁目2-2	028-657-8585	指定	1,762
26	811	インターパークBPC	13				認証	
27	151	宇都宮西川田店	13	321-0151	宇都宮市西川田町 248-1	028-658-8888	指定	956
28	251	鹿沼店	13	322-0025	鹿沼市緑町 1-2-37	0289-64-2635	指定	204
29	311	真岡店	10	321-4361	真岡市並木町 3-5-5	0285-84-2111	認証	173
30	451	佐野店	17	327-0003	佐野市大橋町 1377	0283-22-6136	指定	478
31	511	栃木店	16	328-0012	栃木市平柳町 3-22-3	0282-27-1500	指定	327
32	551	小山店	15	323-0822	小山市駅南町 4-29-24	0285-27-3355	指定	670
33	611	黒磯店	11	325-0027	那須塩原市共墾社 1-6-21	0287-64-2145	指定	400
34	651	西那須野店	13	329-2751	那須塩原市東三島 3-63-5	0287-36-4751	指定	712
35	701	宮環細谷店	18	320-0074	宇都宮市細谷町 735-1	028-622-5432	指定	1,325
36	702	小山ひととのや店	14	323-0827	小山市神鳥谷 309-43	0285-22-3251	指定	1,180
37	703	今市店	10	321-2335	日光市森友 582-2	0288-22-1181	指定	628
38	704	小山喜沢ユーカーランド	4	323-0014	小山市喜沢 647-3	0285-24-9155	—	100
39	705	矢板店	8	329-2135	矢板市中 380-100	0287-43-6271	認証	282

※1.本社に含まれる人員 639

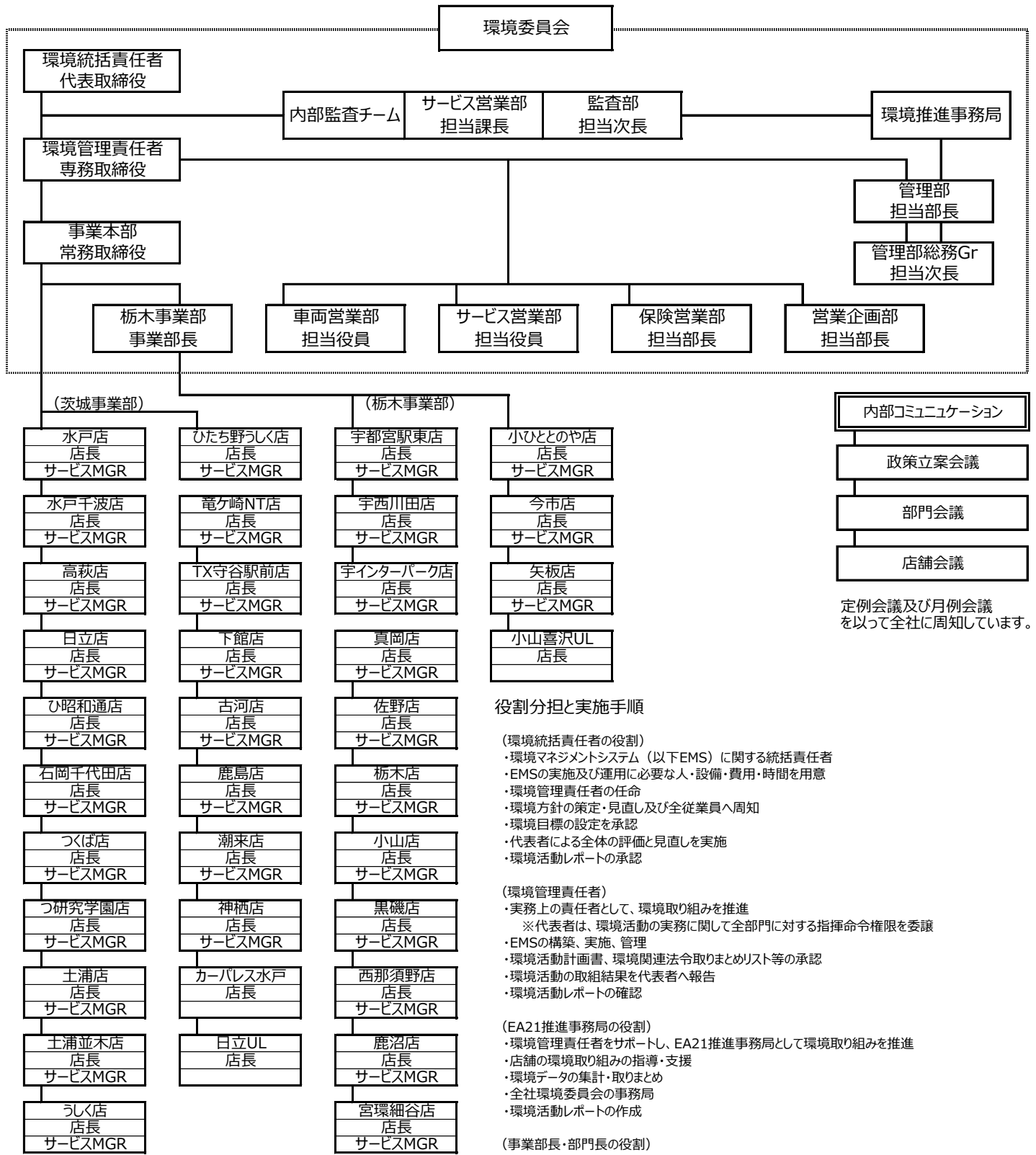
茨城営業支援Gr、茨城BPC

休職者

※2.栃木事業部に含まれる人員

栃木営業支援Gr

平成29年3月31日 現在



役割分担と実施手順

(環境統括責任者の役割)

- ・環境マネジメントシステム (以下EMS) に関する統括責任者
- ・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意
- ・環境管理責任者の任命
- ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知
- ・環境目標の設定を承認
- ・代表者による全体の評価と見直しを実施
- ・環境活動レポートの承認

(環境管理責任者)

- ・実務上の責任者として、環境取り組みを推進
 - ※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲
- ・EMSの構築、実施、管理
- ・環境活動計画書、環境関連法令取りまとめリスト等の承認
- ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
- ・環境活動レポートの確認

(EA21推進事務局の役割)

- ・環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として環境取り組みを推進
- ・店舗の環境取り組みの指導・支援
- ・環境データの集計・取りまとめ
- ・全社環境委員会の事務局
- ・環境活動レポートの作成

(事業部長・部門長の役割)

- ・全社環境委員会のメンバーとして、全社の環境取り組みを推進
- ・担当事業部・部門の環境取り組みの責任者

(店舗の役割)

- ・管理責任者 (店長) : 環境取り組み全体の責任者として、店舗環境取組の推進・管理
- ・補佐 (サービスマネージャー) : サービス領域の環境取り組みに責任を持つ
- とともに (店舗・所属場所) 全体の環境取り組みにおいて、管理責任者をサポートする

定例会議及び月例会議を以って全社に周知しています。

環境目標

1. 環境負荷の現状（平成25年4月から平成26年3月迄）

項目		単位	平成25年度 実績
二酸化炭素排出量		Kg-CO ₂	2,741,042
電気使用量		Kwh	3,066,350
化石燃料	都市ガス使用量	m ³	128
	LPGガス使用量	m ³	3,226
	ガソリン使用量	ℓ	281,481
	軽油使用量	ℓ	101,963
	灯油使用量	ℓ	68,767
廃棄物排出量		Kg	485,511
水使用量		m ³	22,043
グリーン購入		個	1,436
環境に配慮した製品の提供		台	20,085
化学物質		ℓ	27,159

注意事項

- (1) 当社の事業年度は、4月1日から3月31日迄の1年間です。
 (2) 環境負荷の現状は、取組対象36店舗+本社の実績です。
 (3) 平成25年_東京電力の排出係数 (0.531kg-CO₂/kwh)
<http://www.env.go.jp/press/101275.html>

2. 環境目標（中期）

項目	単位	平成25年度 実績	目標						
			平成26年度		平成27年度		平成28年度		
				%		削減率		削減率	
二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	2,741,042	2,727,337	99.5%	2,713,632	99.0%	2,699,926	98.5%	
電器使用量	Kwh	3,066,350	3,051,018	99.5%	3,035,687	99.0%	3,020,355	98.5%	
化石燃料	都市ガス使用量	m ³	128	127	99.5%	127	99.0%	126	98.5%
	LPGガス使用量	m ³	3,226	3,210	99.5%	3,194	99.0%	3,178	98.5%
	ガソリン使用量	ℓ	281,481	280,074	99.5%	278,666	99.0%	277,259	98.5%
	軽油使用量	ℓ	101,963	101,453	99.5%	100,943	99.0%	100,434	98.5%
	灯油使用量	ℓ	68,767	68,423	99.5%	68,079	99.0%	67,735	98.5%
廃棄物排出量	Kg	485,511	483,083	99.5%	480,656	99.0%	478,228	98.5%	
水使用量	m ³	22,043	21,933	99.5%	21,823	99.0%	21,712	98.5%	
グリーン購入	個	1,436	1,443	100.5%	1,450	101.0%	1,458	101.5%	
環境に配慮した製品の提供	台	20,085	20,185	100.5%	20,286	101.0%	20,386	101.5%	
化学物質	ℓ	27,159	27,023	99.5%	26,887	99.0%	26,752	98.5%	

北関東マツダの環境目標

当社は、平成25年度を基準に向こう3年間で毎年0.5%削減を目標とします。

そのため、事業活動で生じる環境負荷のうち、特に影響の大きい「電気使用量の削減」「化石燃料使用量削減」

「水使用量削減」「廃棄物排出量削減」「グリーン購入」「製品及びサービスにおける環境配慮」

「化学物質の削減努力」に取り組む。

環境活動計画

当社の主要な環境活動計画の内容は以下の通りです。

■ 二酸化炭素排出量の削減

□ 電気使用量の削減

- ・エアコンの温度設定（暖房：23℃、冷房：28℃）
- ・クールビズ及びウォームビズ期間の設定（衣替えの時期に合わせて社内展開）
- ・メジャーサイン・看板照明等を20時に消灯、点灯時間の見直し（冬期：18時、夏季：19時）
- ・不要な照明の消灯確認（昼休・休憩時間は、事務所・工場等の消灯実施）
- ・使用時以外のトイレ・会議室・給湯室・更衣室・部品庫等の消灯確認
- ・毎月の電気使用量を記録し、使用量を把握することで意識の啓発を図る
- ・工場エアコンプレッサーの昼休・退社時の電源OFF
- ・長時間の離席時や未使用時のパソコンモニタースイッチOFF

□ 化石燃料使用量の削減

- ・エコドライブの啓発（エコドライブ10のすすめ）
- ・i-Stop車及びスカイアクティブ車の販売促進
- ・ガソリン使用量の記録と社内会議での店舗別実績発表を行い意識の啓発を図る
- ・湯沸かし器は、冬場以外使用を控える（使用期間：12-3月まで）
- ・石油ストーブの使用削減のため、効率よい仕事をして残業時間を減らす

■ 廃棄物排出量の削減

□ 紙使用の削減

- ・ペーパーレス推進のために、Web申請展開、社内文書メール利用の徹底
- ・両面コピー、縮小コピー、裏面利用の徹底（ストックボックス設置）

□ 一般廃棄物の削減

- ・分別処分の徹底（再生できるもの、できないもの）
- ・空き缶、ペットボトルの自販機業者全数回収（再利用）
- ・一般廃棄物の計量と記録で、意識の向上を図る

□ 産業廃棄物の適正処理推進、廃油の有価処理（再利用）の徹底

- ・廃棄物の排出量を毎月記録し、意識の向上を図る
- ・整備用のシートカバー・ビニールマット・部品のお返し袋等の再利用

■ 水使用量の削減

- ・洗車用のホースにストップノズルをつけて、無駄な使用量を削減する
- ・洗物の時、水を流したままにしない
- ・洗車時の汚れ落としは、バケツに溜めた水をスポンジに染込ませて行う
- ・節水の掲示を各蛇口付近に貼る
- ・水道の使用量を毎月記録し、意識の向上を図る
- ・水道光熱費の使用実績を社内会議等で公開し、意識の向上を図る

■ グリーン購入の推進

- ・詰替え製品、再生紙、リサイクルトナーなどの利用推進
- ・環境ラベル認定等製品を購入する

<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/f01.html>

■ 製品及びサービスに関する項目

- ・パックd eメンテの販売（整備コンディションUPで環境に配慮）
- ・i-Stop車及びスカイアクティブ車の販売促進

<http://www.mazda.co.jp/philosophy/skyactiv/>

■ 化学物質の削減

- ・使用する化学物質の量を把握し、適正な管理を行う



↑ 照明、エアコンスイッチまわりのポップ類



↑ 裏紙利用のための「ストックボックス」

↓ 一般廃棄物の分別



分別した廃棄物の計量→

節水を促がす掲示↓



←スカイアクティブエンジン（ガソリン車）

環境活動計画の取組結果・評価及び今後の活動計画

■ 北関東マツダ37店舗（本を含む）実績

項目	単位	平成25年度	平成28年度				評価	
		実績	目標	削減率	実績	削減率		
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	2,741,042	2,699,926	98.5%	2,420,215	89.6%	達成	
電気使用量	Kwh	3,066,350	3,020,355	98.5%	2,785,633	92.2%	達成	
化石燃料	都市ガス使用量	m ³	128	126	98.5%	26,056	20679.4%	未達成
	LPGガス使用量	m ³	3,226	3,178	98.5%	2,923	92.0%	達成
	ガソリン使用量	ℓ	281,481	277,259	98.5%	189,930	68.5%	達成
	軽油使用量	ℓ	101,963	100,434	98.5%	120,121	119.6%	未達成
	灯油使用量	ℓ	68,767	67,735	98.5%	39,952	59.0%	達成
廃棄物排出量	Kg	485,511	478,228	98.5%	791,797	165.6%	未達成	
水使用量	m ³	22,043	21,712	98.5%	22,297	102.7%	未達成	
グリーン購入		1,436	1,458	101.5%	1,012	69.4%	未達成	
環境に配慮した製品の提供		20,085	20,386	101.5%	19,555	95.9%	未達成	
化学物質	ℓ	27,159	26,752	98.5%	15,155	56.6%	達成	

(1) 二酸化炭素排出量の削減

□結果： 目標達成（計画対比：89.6%）

□要因： CO2 の削減率は計画を達成となった。

設備投資の関係で、都市ガス使用量が増加したが、灯油の使用量が減少した。

↓↓↓

□次年： 36店舗のうち、16店舗が排出量削減を達成できた。※宇都宮インターパーク店は実績の把握を目標とした。意識の低下をする事無く、会社全体で二酸化炭素削減の取組みを継続する。

(2) 電気使用量の削減

□結果： 目標達成（計画比：92.2%）

□要因： 佐野店、石岡千代田店、つくば研究学園店の設備投資（LED化）とデマンド対応（潮来店、神栖店）の追加や店舗の閉鎖（足利店）等もあり、昨年に引き続き電力使用量を抑えることができた。

↓↓↓

□次年： 継続的な設備投資（LED化）を計画していくが、新規店舗（ひたちなか田彦店）も計画されているので改めて節電意識を再アウンスを行い、引き続き電力使用量の抑制を図る。

(3) 都市ガス使用量の削減

□結果： 目標未達成（計画比：20679.4%）

□要因： インターパークBPCの設備投資のより、乾燥炉（塗装ブース）の使用燃料が灯油から都市ガスに変更された。新設備での処理台数増加による使用量増加。効率的な稼働を続ける。

↓↓↓

□次年： 都市ガスに変更して数年は使用量のウォッチを続けながら、処理台数を増やしていく事とエネルギーの効率的な利用を目指していく

(4) LPGガス使用量の削減

□結果： 目標達成（計画比：92.0%）

□要因： 店舗で設備の改修に伴い、ガスから電気給湯に切替えたことにより、使用量が減った。

↓↓↓

□次年： 冬期の使用制限の継続とともに、使用できる期間内でも温度差などによる制限も定着させたい。

(5) ガソリン使用量の削減

□結果： 目標達成（計画比：68.5%）

□要因： 引き続きディーゼル比率の関係でガソリン使用量が減っているのもそうだが、年々代車も新車が増えてきて燃費なども起因している。来店型店舗になり、引き取り納車なども減ってきている。

↓↓↓

□次年： 業務使用のガソリンの削減には引き続き努めていく。

(6) 軽油使用量の削減

□結果： 目標達成（計画比：119.6%）

□要因： 近年増加してきたディーゼルも落ち着いてきたが、社員購入の構成比は高いので、ガソリン車からの買い替えで使用量増。

↓↓↓

□次年： クリーンディーゼル車の販売台数は安定してきているので、販売台数の伸びや業務の昨年に引き続き、使用量増が見込まれるため、エコドライブ等で化石燃料総使用量の削減として取り組む。

(7) 灯油使用量の削減

- 結果： 目標未達成（計画比：59.0%）
- 要因： 昨年、栃木のBPCの乾燥ブース燃料変更で大幅に削減された為、大幅な使用量の削減となった。
茨城BPCの使用量はほぼ横ばいであり、在庫量の増減も影響する。
↓↓↓
- 次年： 使用量の多くは、茨城の钣金工場の塗装ブースによるもので、その使用量は在庫量で変動する。
効率的な工場運営により削減に取り組む。

(8) 廃棄物排出量の削減

- 結果： 目標未達成（計画比：165.6%）
- 要因： 昨年、今年とリコールによる整備在庫量の台数増により、交換部品の廃棄が増えて基準年度からは大幅増となった。
一般ごみの削減は地道な活動だが、ペーパーレス等も含めてごみを出さない取り組みができた。
↓↓↓
- 次年： 引き続き、一般廃棄物の確認と記録（計量）を定着させて、削減取組を前進させたい。

(9) 水使用量の削減

- 結果： 目標達成（計画比：102.7%）
- 要因： サービスの在庫量増（平均約1,000台/月）のよる洗車台数増加によるものもひとつ。
↓↓↓
- 次年： ストップノズルの取付けや、スポンジ利用による汚れ落としなど、洗車時の無駄な流水削減する取り組みを継続。
使用削減の社内アナウンスも継続的に進める。

(10) グリーン購入

- 結果： 現状確認を目標として取り組み中

購入数の推移					
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年	平成28年	前年比
866	1,436	797	779	1,012	233

- 要因： グリーン購入の記録がやや疎かになった。コストの見合いなどもありまだ課題も残る。
↓↓↓
- 次年： 購入品（推奨品）リスト等を社内展開して意識を高めていく。

(11) 自らが販売・提供する製品及びサービスに関する項目

- 結果： 現状確認を目標として取り組み中

i-Stop車、スカイアクティブ車販売			バックd eメンテ販売件数		
平成27年度	平成28年度	増減	平成27年度	平成28年度	増減
6,781	4,965	-1,816	14,387	14,590	203

- 要因： 全体の販売台数が伸びてない為、i-Stop車、スカイアクティブ車販売も大幅な減少
しかしながら、バックd eメンテ販売件数は203件の増加と付帯率が上がった
定期的なメンテナンスを実施するために、引き続きバック商品の装着比率のアップに努めたい。
↓↓↓
- 次年： スカイアクティブ車のガソリン車に続き、クリーンディーゼル車のバリエーションも増えたため、全店販売強化に取り組む。

(12) 化学物質の削減努力

- 結果： 目標達成（計画比：56.6%）
- 要因： ロングライフクーラント使用車両の交換サイクルも来ている為、エチレングリコールの使用量は
前年より微増になった。シンナーの使用量も在庫量とのバランスで微増
- 次年： 内製化を進めているため、钣金工場の入庫量も増加が見込まれており、有機溶剤等の使用量が
増える要素が大きい。売上との相関関係を睨みながら、実績把握を続けていきたい。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規等

平成29年3月31日 作成

	環境関連法規等	要求事項	評価
1	環境基本法	ばい煙、汚水、廃棄物等の処理、その他公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講じる。	○
2	温暖化対策推進法	温室効果ガス排出の抑制に努める。	○
3	水質汚濁防止法	公共用水域に排出する特定施設の設置届。	○
4	下水道法	下水道への不適物放流禁止の遵守	○
5	浄化槽法	保守点検ならびに水質検査の実施	○
6	騒音規正法	規制基準遵守 騒音発生施設の設置の届出	○
7	廃棄物処理法	産業廃棄物保管基準の遵守 産業廃棄物の運搬・処分等の委託の基準の遵守 管理票（マニフェスト）の交付・保管 管理票（マニフェスト）の交付状況の報告	○
8	省エネルギー法	使用燃料 重油換算1,500Kℓ/年以上に達した場合の削減計画の策定と実施。	○
9	自動車リサイクル法	使用済自動車の廃棄引渡義務の履行。	○
10	フロン排出抑制法	第一種フロン類機器所有者の義務	○
11	消防法	指定数量内貯蔵の厳守。	○
12	労働安全衛生法	危害防止基準の確立及び健康被害防止措置。	○
13	生活環境の保全等に関する条例	事業活動に伴う公害の防止。	○
14	廃棄物の適正な処理の促進に関する条例（市や県）	廃棄物の適正な処理の促進	○

(2) 遵守状況及び違反、訴訟等の有無

当社は、自社の遵守状況評価で環境関連法規等に違反がない事を確認しました。関係当局より違反等の指摘についても過去3年間ありませんでした。

代表者による全体評価と見直し

実施日	平成29年8月2日（水） 午前10時から11時迄
場所	茨城県水戸市千波町2770番地74 本社2階会議室
出席者	<p>環境統括責任者： 代表取締役 環境管理責任者： 専務取締役 茨城事業部長： 常務取締役 サービス営業部： 取締役部長 車両営業部： 部長 営業企画部： 部長</p> <p>EA21_環境推進事務局： 管理部： 部長 総務Gr： 次長 監査部： 次長</p> <p>サービス営業部： 課長 (茨城) サービス営業部： 課長 (栃木) サービス営業部： 係長 (栃木)</p>
使用した資料	・エコアクション21 環境活動レポート
はじめに	<p>マツダは、2030年を見据えた技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」を2017年8月に公表する予定です。</p> <p>これまでマツダは、2007年に発表した技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」にもとづき、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」の両立に取り組んでまいりました。そしてこのたび、世界の自動車産業を取り巻く環境の急激な変化を踏まえ、より長期的な視野に立ち、クルマの持つ魅力である「走る歓び」によって、「地球」、「社会」、「人」それぞれの課題解決を目指す新しいチャレンジ「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言2030」に挑戦します。</p>
評価 環境活動取組み 目標達成状況	<p>上記の宣言から、環境に配慮した環境にやさしい車両の販売に力を入れて取組み開始、自動車販売会社として、多くのお客様に最新のマツダSkyActiv車両へのお買い替えを促進しています。二酸化炭素排出量削減については、電力使用において全社を挙げて節電の取り組みを継続、照明の消灯時間、冷暖房設備の温度設定等ルールを作成し、POPを全店舗に配布する事やこまめな温度調節など全員のエコに対する意識を高めてきた結果、電気使用量の目標を達成する事ができました。また、ガソリン、軽油の使用量も目標達成できましたが、設備の変更で都市ガスの使用量については、削減目標が未達成で、今後の課題になりました。</p>
見直し	<p>環境方針はこのまま継続する。当社は、新世代店舗の計画的な設備投資を推進してきており、平成27年度には宇都宮のインターパークに新店が予定通りオープン、LED照明や省エネ型空調設備等を採用してCO2の削減を実現している。本年度も佐野店、石岡千代田店、つくば研究学園店を始めとして設備投資による環境設備を充実した。</p>
指示事項	<p>平成29年度は、ひたちなか市に2番目の新店をオープン予定、また、宇都宮西川田店を新世代化に改修工事する予定。環境にやさしいSkyActiv商品の更なる拡販と設備投資による、環境経営を更に加速させていく。</p>

2017/08/2：作成：承認：菊地健太郎